

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市将監児童館	
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 20,850人(前年度比 103.9%) 令和4年度 20,058人 令和3年度 18,481人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 37,753千円 (36,464千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシートで確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。 なお、児童館管理業務仕様書において月に1回以上実施しなければならないと定めている避難訓練等を実施していない月があった。	29/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>重点目標として「家庭と協力しながら、自分の気持ちを表現し、地域の一員として自立して生活する力を育む」を掲げ、本来の児童館機能を取り戻し、子ども達が多種多様な体験ができるよう地域の方々にご協力頂きながら事業に取り組んできました。「児童健全育成事業」では、当地区ならではの中学生ボランティアを活用し、壁面制作・おもちゃ作り・蛇じゃんけんゲーム等中学生自ら企画した遊びにより交流を図りました。又児童館まつりとしての「かっきーランド～謎解きに挑戦～」も中学生ボランティアの協力のもと実施し、多くの親子連れや高学年児童も参加があり、幅広い年齢層のアプローチの機会となりました。「子育て家庭支援事業」では、特に近年要望の高い、0歳児向けの“びよびよタイム”では隣接のコスモス将監保育園や併設のサンホームと連携し、多様な育児相談に対応しながらの親子ふれあい遊びやベビーマッサージ・子育て講話等を行い、母親の孤立や不安感解消や仲間づくりに貢献できました。さらに地域の子育て支援クラブ・人形劇サークル・読み聞かせボランティアと連携し、交流を図りながら親のリフレッシュの場、親子の愛着関係を築く場を提供しました。「地域交流推進事業」では、将監児童センター・将監西児童館と3館協力して幼児親子対象の七夕工作やハロウィン行事・外部講師による音楽会企画を行い、学区を超えた交流を図ることができました。又、小学生対象では“昔の正月遊び”“造形遊び”“タヒチアンダンス”等を地域の方を講師として学び、市民センター祭りで発表することで世代間交流をしながら達成感や自己肯定感を高めることができました。「放課後児童健全育成事業」では、毎日の登館挨拶や読書タイム等を活用して言葉遊びや読み聞かせなどを行い、コミュニケーション能力を高め、自分らしく自立できる力を付けるよう導いています。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、今年度も将監中学校と連携して中学生ボランティア「COCO活」の活動を支援した。「かっきーランド」のコーナー運営の他、制作活動や運動遊び等、小学生と中学生が話し合いをしながら主体的な活動が行われ、異年齢による集団活動を通して社会性や主体性を育てている。また、小学校と連携し年2回子ども達の授業参観後の居場所作りとして「マイスクール将監中央」の教室で工作等の遊びを提供し、地域の保護者から好評を得るとともに児童館の活動をアピールする機会となった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、併設の仙台市サンホームや近隣の保育園の子育て支援室、子育て支援クラブと連携して保護者のニーズにあった充実した事業が展開されている。子育てミニ講座は0歳児を対象に作業療法士を招いての子育て相談、発達や心の育ち、おすすめの遊び等について学ぶ機会やふれあい遊びを通して気軽な相談の場を提供している。また「保育士と遊ぼう」や季節の行事や子育て支援クラブ主催の手作業を通じた参加者のリフレッシュと交流等、地域との関係機関と連携しながら地域が一体となって子どもと子育て家庭を支援する環境作りに努めている。</p> <p>地域交流推進事業においては、乳幼児対象の恒例の3館連携事業の地域毎の七夕飾りやハロウィンではスタンプラリーを用いた各館の遊びの提供によりそれぞれの地域の乳幼児親子が交流している。また、将監児童センターを会場に行われた芸術鑑賞会においては、遠方からの参加者も見られる等、地域との連携を深めながら児童館の認知度を高める取り組みとなっている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、アンケート用紙を作成し、子どもの要望をできる限り実現する活動として動と静の遊び「パチパチタイム」と「パチスポタイム」が年間通して行われ、自由来館児童も参加して遊びを通じた異年齢交流が展開されている。また、取り組み目標であるコミュニケーション力を高める活動として、言葉遊びを通じた適切な言葉の選択や言葉で伝える大切さを日々伝え、子ども同士のトラブルが減少する等、手ごたえを感じる取り組みとなっている。</p>	A

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課